

御嶽登山 (3067m)

期日 2010年7月17日～19日

参加者 石川誠他1名

7/17日 横須賀6時発—中央高速経由—田の原登山口14:00着



横須賀を6時出発相模原経由で八王子インターから中央高速道路へ、連休初日と言うことで、乗った途端に渋滞先が思いやられる。途中談合坂、諏訪湖で休憩を取り塩尻インターから一般道に下り奈良井宿と木曾福島の手前を、御嶽湖のわき道を辿って御嶽スカイライン道路を上がる。この道路はジグザク道だか完全に舗装され、一気に登山口である田の原標高2180m(王滝登山口)へと導いてくれる。今夜の宿は田の原山荘(山小屋、宿坊の様なもの) 宿泊1泊2食8400円

「田の原登山口から頂上を見上げる」

翌朝は早いのでお握り弁当にしてもらう。部屋は10畳でその日は5人が同宿した。



「雲海の彼方に先に中央アルプスと南アの北岳を望む」

他の3人は男性で60台後半2名40台1名男性ばかり、お互いの山自慢が始まり私も話に乗る。

一人は笠ヶ岳を目指すも笠新道を途中で下山、御嶽に転進してきたとのことであり、もう一方は、恵那山を登り御嶽に来たことであつた。まあ、中高年登山者が多い。

又、この山の特色は、信仰登山で白装束に身を固めた集団が大型バスで乗りつけ、ご来光を拝むとのことで、夜中にお経を読み出発して行ったのには驚いた。

7/18日 小屋4:50発—御嶽山頂上(剣ヶ峰)8:00着—8:30発—登山口帰着11:00



「登山道から田の原登山口を見下ろす」



「9合目辺りから頂上を見上げる」

朝方雲海上から上がる旭日に周りの山々が茜色に映えて、梅雨明け初日の登山日和である。我々も朝5時前に宿を後にする。白装束の集団が法螺貝を先頭に下りてくるのにすれ違う。若い人も見受けるが、お年寄りも多く、どこかお寺の講中の一団がほとんどである。

登山口は大きな鳥居があり、登山者の皆んな頭を下げて歩き出す。われわれも自然に礼拝し、安全登山を祈って出発する。最初は平坦な道が大江権現あたりまで続き、徐々に登り始める。「あかつばげ」とい



う斜面が崩れた様な場所を過ぎ、金剛童子が立つ8合目へ、ここから這い松帯となって途中、高山植物のコイワカガミや雷鳥の親子が砂浴びしている様子も見ることが出来た。

9合目の溶岩帯を過ぎて急登すれば御嶽神社がある王滝頂上である。途中の沢筋にはまだ雪渓も残っている。つい1週間くらい前にはルートが違うが三ノ池からのトラバースで落石による死亡事故が報じられていた。登山を楽しみにして来たのに大変不幸なことで他人事ではないという思いを強く感じる。

ここから御嶽頂上である剣ヶ峰へは八丁ダルミ

「剣ヶ峰（御嶽頂上）から二の池を見下ろす」

を緩やかに登って急な石段を登れば御嶽神社本宮ある剣ヶ峰頂上（3067m）である。6合目登山口から3時間30分位であろうか。頂上からは北アルプス奥穂高、吊尾根、前穂、岳沢、笠ヶ岳、中央アルプス連山、南アの北岳、鳳凰三山、南に富士山、後ろに加賀の白山と360度の山また山の展望を満喫する事が出来た。帰りは二の池周遊して下山する予定であったが、



「途中の雪渓で」

今日中に飛騨の平湯へ行かなければならず途中雪渓もあり、時間が掛りそうなので元来た道をのんびり下る。しかし上部は溶岩の道で、下から上がってくる登山者も多く、すれ違うのにも時間待ち、子どもたちも5歳の女の子が元気に登って来る子もいれば泣いて登って来る男の子、その中にはスニーカーで登っているご婦人、足元もおぼつかず大変苦勞している様子で見ている私も思わず道筋、足場を案内する始末である。



「コイワカガミ」

さすが信仰登山と思ったのは、一本足の足高下駄を履き、白装束に烏帽子をかぶって登って来る信者や高下駄は危ないのか、はだしで砂利道を歩いている中年ご婦人には驚かされた。もっとも頂上には行かず途中の遥拝所までとは思いますが、さすが御嶽登山は他の山とは一風違うなと言う思いを強くした登山であった。下山後奈良井宿、木祖村、奈川ダムに出て安房隧道経由して飛騨の福地温泉に投宿、翌日乗鞍岳を登る予定だったが半日かかるため渋滞を避け、8：30発もと来た道を横須賀へ15：00頃帰宅する。

記録 石川誠